

科目名	仏教学特殊講義D			学期	後期	単位数	2	担当者	前谷彰
副題	漢訳語と原典における語彙の異相								
ナンバリング	M3-02-310	授業方法	講義	実務経験の有無			無	関連DP	1

授業の目的と概要

仏教思想を理解する上で、漢訳語だけではどれだけ多くの間違いを生じさせるかの実例を示し、原典（サンスクリット語やパーリ語）との異相を探っていく。

授業の到達目標

漢訳語と原典における語彙の異相を探ることができるようになる。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 「八正道」について
3. 「善」について
4. 「中道」について
5. 「慈悲」について
6. 仏教用語について考える①
7. 仏教用語について考える②
8. 仏教用語について考える③
9. 仏教用語について考える④
10. 仏教用語について考える⑤
11. 仏教用語について考える⑥
12. 仏教用語について考える⑦
13. 仏教用語について考える⑧
14. 仏教用語について考える⑨
15. 総まとめ

準備学習（予習・復習）・時間

事後学習として授業で学修した内容について復習し、疑問点があれば次の授業で質問できるようまとめておくこと。（90分）

テキスト

担当者がコピーを配布する。

参考書・参考資料等

必要に応じて担当者がコピーを配布する。

学生に対する評価

学期末のレポート（70%）と、授業時の意欲や問題意識をどれだけ持っているか（30%）によって評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

- （C）仏教の基礎語彙を抑えている。
- （B）仏教の基礎語彙を歴史の流れに沿って説明できる。
- （A）仏教思想を現代の諸問題に応用し、説明することができる。
- （S）縁起の思想を「中道」「慈悲」「非我」のキーワードを用い、その相即的關係を説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については毎回の授業中、次の授業中にフィードバックを行う。

その他

授業計画については、学生の要望に応じて、担当教員が判断する。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）